

授業科目名	美術史	担当教員	今井 祐子
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	2年 第3クォーター		
講義内容	<p>本講義では西洋の近現代美術を取り上げます。授業では代表的な作品を通して様式の変遷を概観しつつ、それに関連づけられる美学、美術史上の研究手法、美術制度、技法、社会状況にも注目します。</p> <p>18世紀の西洋では、近代的な学問としての「美学」（哲学の一部門としての狭義の美学）が誕生し、歴史的枠組みの中で作品を捉える体系的学問としての「美術史学」も成立しました。美学や美術史を知らないとは美術を理解できないわけではありませんが、それらを学んで作者や作品に関するさまざまな情報を得ることで作品を見る眼が変わります。作品が制作された時代や地域の歴史的・社会的・文化的背景、及び美学で論じられてきた内容をふまえて作品を見ると、作品の捉え方が広がるのです。作品が自身の生きている時間や場所以外で制作されたものであればなおさらです。</p> <p>本講義では、芸術作品を様々な視点を交えて考察し、その鑑賞方法の多様性を理解することに加え、芸術作品を通して鑑賞者同士で語り合う対話力を身につけることを目指します。そのため各授業では、適宜グループに分かれて授業内容を振り返り、皆で意見交換をする時間を持ちたいと思います。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術作品を、それが制作された社会・文化・思想との関わりのなかで捉えることができる。 ・日本とは異なる文化圏で制作された個々の作品について、自らの感性で捉えて考え、それを自身の言葉で表現できる。 ・芸術作品を通じて鑑賞者同士で語り合い、想像力も駆使しながら、美術作品をともに読み解いていく対話力を身につける。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：美術史とは？美学とは？／バロック美術とロココ美術 2. 新古典主義とアカデミスム 3. ロマン主義と崇高の美学 4. 近代風景画の発展 5. レアリスムとスキャンダル 中間小テスト 6. 印象派① 7. 印象派② 8. 印象派③ 9. 新印象派 10. ポスト印象派 		

	11. ラファエル前派と象徴派 12. フォービズムとキュビズム 期末小テスト
事前・事後 学習	事前学習：授業資料に目を通し、分からない用語の意味を調べる（約 90 分）。 事後学習：授業を振り返って復習したり疑問点等をまとめたりして、小テストやレポートに備える（約 90 分）。
テキスト	授業では教科書を使用せず、事前に各回の授業資料（PDF）を配付します。
参考文献	ポール・デュロ、マイケル・グリーンハルシュ『美術史の辞典』中森義宗、清水忠訳、東信堂、1998 年。 高階秀爾監修『増補新装 カラー版西洋美術史』美術出版社、2002 年。 益田朋幸、喜多崎親『岩波 西洋美術用語辞典』岩波書店、2005 年。 三浦篤『まなざしのレッスン 2：西洋近現代絵画』東京大学出版会、2015 年。 ※その他の参考書については、授業中に適宜指示します。
成績評価 の 基 準	3 分の 2 以上の出席を前提に、以下の配点割合で評価します。 ・平常点（リアクションペーパーの内容、グループワークへの貢献） 30% ・小テスト 20% ・期末レポート 50%
履修上の注意 履修要件	・授業の後に、受講生には各自の考察、感想、質問等を記入したリアクションペーパーを提出してもらいます。このリアクションペーパーの提出をもって出席とみなします。 ・中間と期末の小テストでは、学生は講義で学んだことを○×形式、短文回答、長文回答の 3 つの形式で問う問題に解答します。 ・できるだけ美術館を訪れ、展示されている作品を実際に見て欲しいです。
実践的教育	該当しない。
備考欄	定員超過の場合、GPA により履修者を決定します。 2021 年～2024 年度入学生：「美学美術史」